

福部に残る神功皇后伝説

縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治時代 大正・明治・昭和時代

神功皇后が三韓征伐の途中湯山の港に寄港

神功皇后は、神話や伝説で語られることが多く、史実は諸説あり本当に実在したのか不明な点が多いが、福部の地、特に湯山周辺には神功皇后が、寄港したと伝えられる「地名」が数多く残っている。

日本各地の伝説を読み解きながら福部寄港の伝説を見ると。

神功皇后は、女性で日本書紀などによれば、3世紀に登場する皇后で169年生まれ、269年没とされている。100歳もの長生きをした皇后である。

神功皇后が、32歳の時（201年）三韓征伐（新羅・百済・高句麗）のため、高志の国（敦賀付近）から船団を組み、九州を経て三韓へ攻め込む前に日本海の各港を經由して出兵したとされる。

伝説では、その際にふくべの湯山湾口に立ち寄ったと伝えられている。

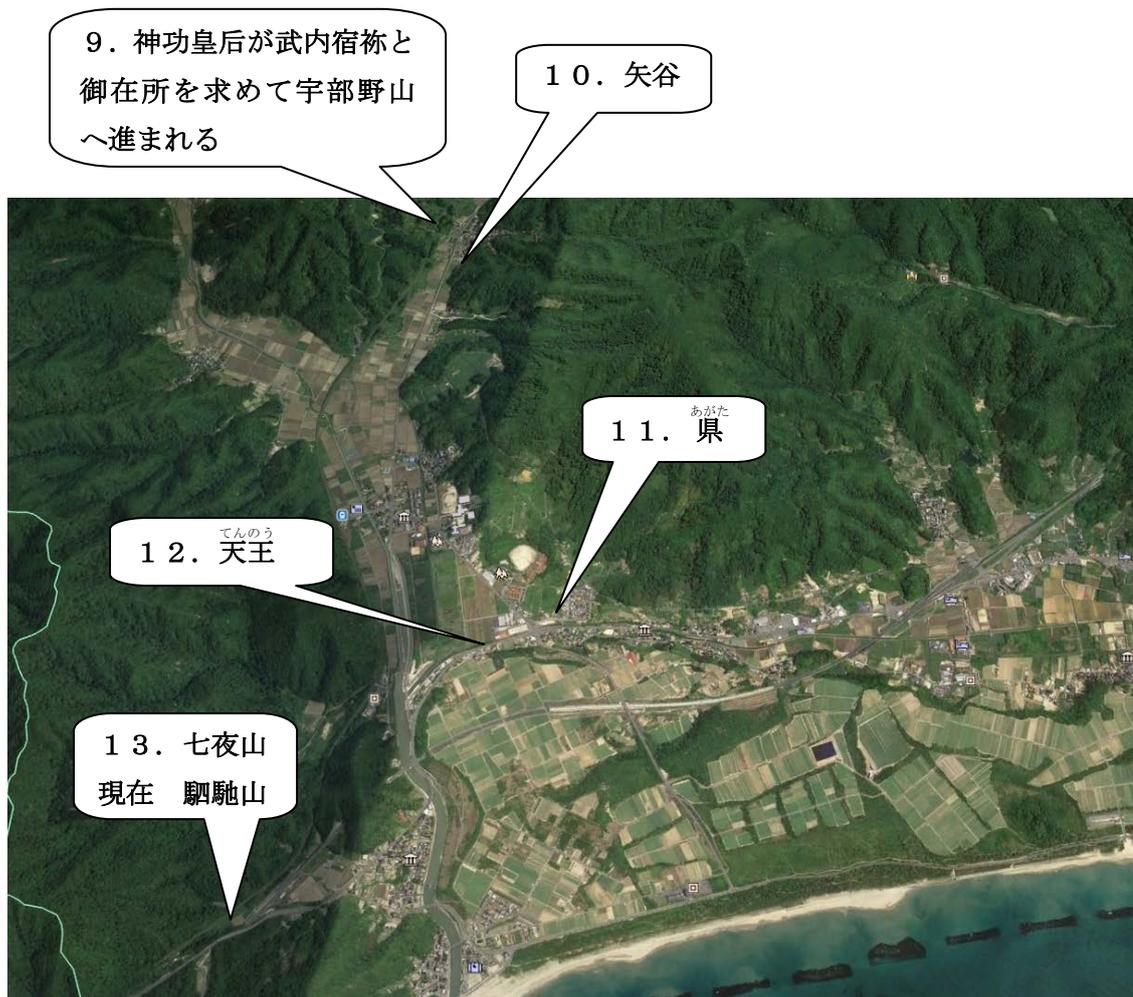
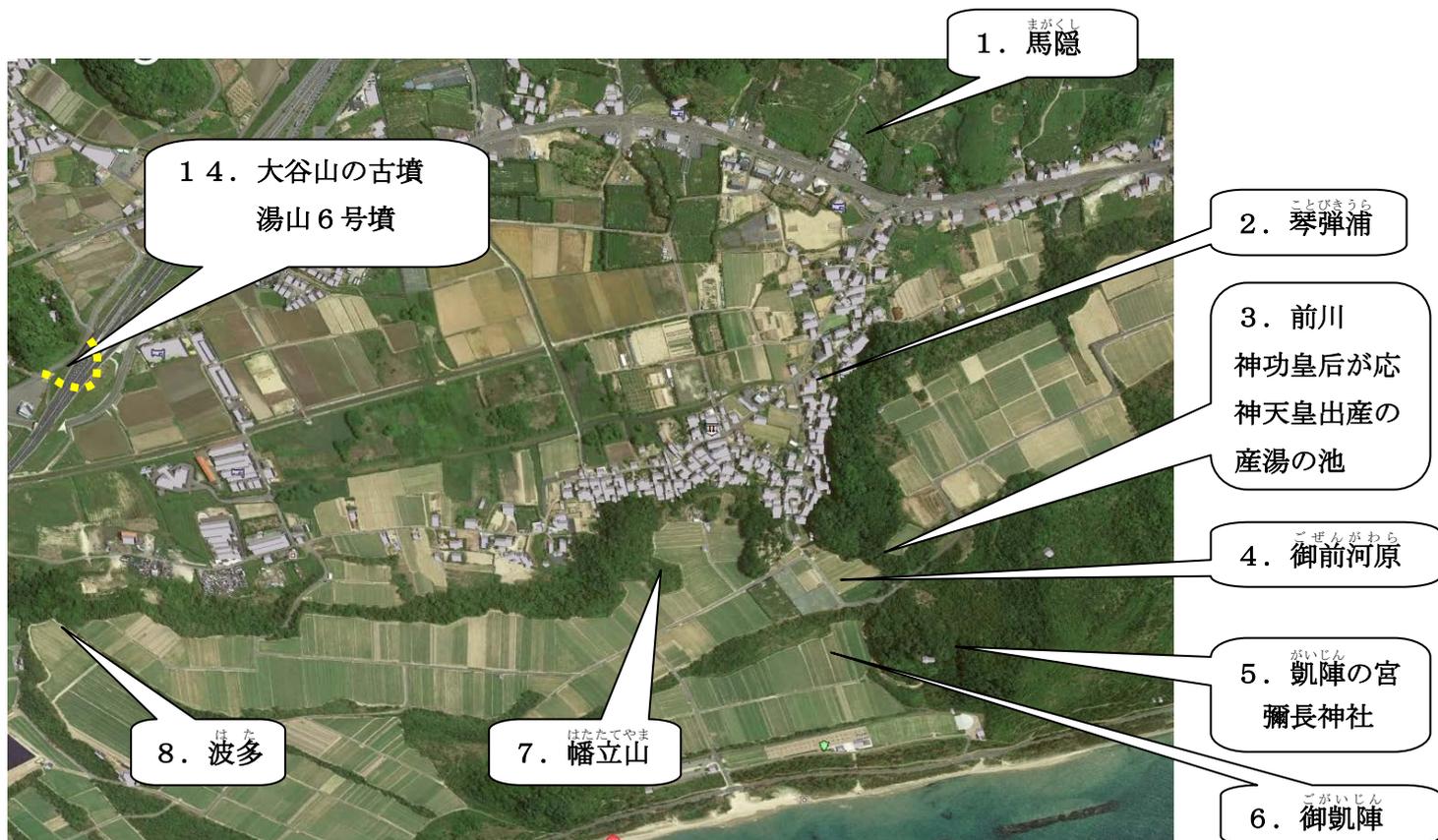
別の伝説では、三韓征伐の帰途の途中に寄港したとの言い伝えもある。



当時の福部の湯山湾口の地形想像図

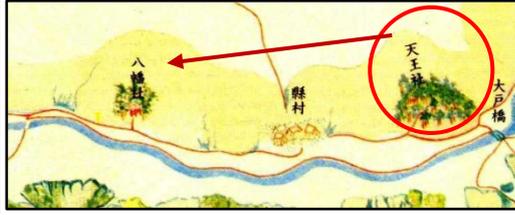


ふくべに残る神功皇后伝説の地名



No	地名・読み方	伝説や写真
1	馬隠（まがくし）	浜湯山の元9号線の山側にあり、神功皇后が馬を隠された所と言い伝えられる地名。
2	琴弾浦（ことびきうら）	この時代の福部の地形は湯山を湾口として内海が広がり、港であったと言い伝えられる地名。
3	前川（まえがわ）	<p>凱陣の宮、彌永神社のふもとに池があり、現在直径20m程度の大きさで砂丘の湧水が貯まりで出来た池。</p> <p>この池で神功皇后が応神天皇を出産した際に産湯として使った所と言い伝えられる。</p> 
4	御前河原（ごぜんがわら）	凱陣の宮の下に広がる砂丘地でここに陣を張ったと言い伝えられる。
5	凱陣の宮（がいじんのみや）	<p>凱陣山（現在のニツ山）のふもとの彌長神社の所と言い伝えられる。</p> <p>彌長神社（弥長神社）</p> <p>ご祭神：応神天皇【品陀和気命・誉田別命（ほんだわけのみこと）】</p> <p>氏 神：<small>いよなが</small>彌長大明神</p>
6	御凱陣（ごがいじん）	凱陣の宮の前に広がる砂丘地でここに陣を張ったと言い伝えられる。
7	幡立山（はたたてやま）	神功皇后の御旗を立てた所と言い伝えられる。
8	波多（はた）	<p>神功皇后がここに旗を立てたと言い伝えられる。</p> <p>当時はふくべの内海に浮かぶ島であったと思われる。</p>
9	宇部野山（うべのやま）	<p>三韓征伐には神功皇后は武内宿祢<small>たけのうちのすくね</small>を伴い、在所を探すため国府の宇部野山に行き着く。</p> <p>宇部神社のご祭神は「武内宿祢」である。</p>
10	矢谷（やだに）	神功皇后が戦のためのこの地で「矢」を作らせたことから地名が矢谷となったと言い伝えられる。
11	県（あがた）	<p>この地に神功皇后が上陸した時に、部下に向かって「オット、アガッタ」と言われ、これが詰まって「アガタ」となったと伝説が残る。</p> <p>「県」は大化の改心（645年～650年）以前、諸国にあった大和政権の地方組織。</p> <p>また<small>あがたぬし</small>県主が統治した地域から付けられた地名だと思われる。</p>
12	天王（てんのう）	<p>この地には江戸中期の古絵図にも「天王社」と明記されている。</p> <p>現在は式内神社・服部神社と併合されて一緒に祭られている。</p> <p>ご祭神：天棚織姫命（あめのはたおりひめのみこと）</p>

素さの鳴命（すさのおのみこと）



天皇社は県のバス停の浜側にあったが、その後海士の「八幡社（現在の服部神社）」に合祀された。

13 七夜山（しちやま）

神功皇后が応神天皇をご出産の時、この山に七日七夜寝所を設けられたことから七夜山と呼ばれると言い伝えられる。

14 大谷山の湯山6号墳

大谷山・湯山6号墳は、神功皇后伝説とは直接関係のない地名であるが、ここから発掘された出土品の数々は製作技術の高さからして、5世紀初頭の福部の地域で製作したとは考えにくく、特に「冑」は鳥取県保護文化財に指定される全国的にも貴重なものである。

大谷山は湯山池全体を一望できる、標高35mの小高い山の先端部に円墳直径13m・高さ1mでこの近辺には同程度の円墳が数基発見されていることから考えても、朝鮮半島からの伝来か技術を身につけた渡来人の作か、または神功皇后の寄港時期とは約200年の開きがあるが、何らかの関係があることが想像される。

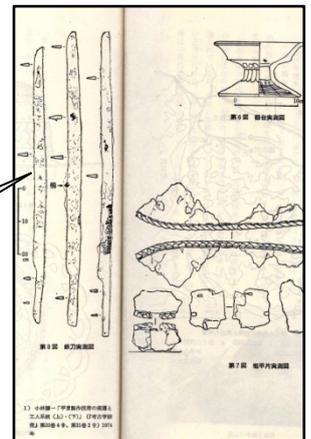
● ^{かぶと}冑や^{こう}甲、鉄剣などの武具が発見される。



カブト(山湯山六号古墳より出土)



写真10 湯山6号墳の甲



鉄剣 3本

一般的に日本で鉄が登場するのは、5世紀初頭以降とされており、神功皇后の三韓征伐は、「鉄の技術確保と鉄材料の入手」であったと言われているが、このことと何か関係（朝鮮半島からの伝来か技術を身につけた渡来人）がこの時期この地にいたのではと考える。

